

皆様おはようございます。天気予報では週の半ばの雪は言っていましたが、週の後半の雪はここまでとは予想されていなかったようですけれども、その雪がこの冬1番のような降り方でであったのではないのでしょうか。雪がたくさん降りました。寒い中お元気でお過ごしでいらっしやいましたでしょうか。

ワクチンの3回目の接種も次々実施されています。副反応からも守られ過ぎられますようお祈りいたしております。2月も余すところあと1週間となりました。寒い寒いと言っているのもあとわずかと思い、乗り越えていきたいと願っております。

少し前に主のご降誕をお祝いしたかと思いましたが、3月に入れば受難節が始まります。

そして私のお苦しみの出来事を味わいながら、今年は4月17日がイースターです。新しい年度も私が教会と私たちを豊かに持ち用いてみ栄えを表して下さることを信じ進んでまいりましょう。

ヨハネによる福音書6章を読み進めております。「わたしが命のパンである」と言う非常に有名な箇所が開かれています。「それ行けアンパンマン」と言う子供たちに長く愛されている漫画を描いたやなせたかしさんはクリスチャンでした。アンパンマンは、多くの疲れた人のために自分の顔を食べて元気づけるといふキャラクターです。あの漫画を読むたびに子供たちはあのアンパンマンのうちに自己犠牲的な愛を見、また困難があっても助けを得て乗り越えていけるのだと感じます。慰めが与えられ、困難から助け出される、そういう信頼感、希望を見出し続けてきたのではないかと思います。

イエス様が青草の上で男だけで五千人の人たちに給食なされたその出来事が記してありました。お腹がペコペコで食べるものもない人たちが多くいました。イエス様へついていけば何か活路が見出されるかもしれないと、ついていった多くの人たちがいました。その彼らを見て、イエス様はマタイ9章35節以降にある御恵みの心を傾けられました。

9:35 イエスは町や村を残らず回って、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、ありとあらゆる病気や患いをいやされた。

9:36 また、群衆が飼い主のいない羊のように弱り果て、打ちひしがれているのを見て、深く憐れまれた。

イエス様はそのように打ちひしがれ飼い主のいない羊を見る思いで彼らを養い、青草の上で彼らをもてなし、喜びを与えて下さいました。その五千人、一万人もの人たちの喜びの声はいかなるものであったでしょう。それから人々はイエス様を追いかけてきました。けれどもイエス様はおっしやいました。

ヨハネ 6:26 イエスは答えて言われた。「はっきり言うておく。あなたがたがわたしを捜しているのは、しるしを見たからではなく、パンを食べて満腹したからだ。

今日の個所にもありましたように、(6:31 わたしたちの先祖は、荒れ野でマナナを食べました。『天からのパンを彼らに与えて食べさせた』と書いてありとおりです。’)人々はモーセが私たちの先祖たちに天からの糧を与えて養ったように、今日も私たちを養ってほしいと願います。

しかしイエス様はこう語られました。6:27 朽ちる食べ物のためではなく、いつまでもなくならないで、永遠の命に至る食べ物のために働きなさい。これこそ、人の子があなたがたに与える食べ物である。

「いつまでもなくならないで、永遠の命に至る食べ物」御子イエス様の贖いによって、私たちに与えられた新しい生活があります。朽ちる食べ物はやがて朽ち行くこの身体を養うために必要ですが、私たちの命はこの朽ちるべき体と共に終わるものではなく、そこには永遠の命があることが聖書には語られています。

しかし人々はそれでもなお目に見える朽ちる食べ物のこと考え続けていました。

27 朽ちる食べ物のためではなく、いつまでもなくならないで、永遠の命に至る食べ物のために働きなさい。これこそ、人の子があなたがたに与える食べ物である。

このように語られれば、永遠のいのちに至る食べ物欲しさにこう言います。

28 そこで彼らが、「神の業を行うためには、何をしたらよいでしょうか」と言うとき、

29 イエスは答えて言われた。「神がお遣わしになった者を信じること、それが神の業である。」

30 そこで、彼らは言った。「それでは、わたしたちが見てあなたを信じるように、どんなしるしを行ってくださいますか。どのようなことをしてくださいますか。

これは私たちが信じるできないという決定的な弱さを言い表している言葉です。信じる力が決定的に欠けているんだなあと言うことをつくづく知らされる言葉です。見てあなたを信じるようにしるしを行って下さい。何かしてください、そして見せてください。31 わたしたちの先祖は、荒

れ野でマンナを食べました。『天からのパンを彼らに与えて食べさせた』と書いてあるとおりです。」

そのように私たちにもしるしを見せてください。実物を見せてください。養ってください。信じることができるようにしてください。そうすれば信じられま
すと彼らは語ります。あの五千人のパンの給食を見せていただいてもなお彼ら
はまだ信じることができませんでした。

32 すると、イエスは言われた。「はっきり言うておく。モーセが天からのパ
ンをあなたがたに与えたのではなく、わたしの父が天からのまことのパンをお
与えになる。

6:33 神のパンは、天から降って来て、世に命を与えるものである。」

6:34 そこで、彼らが、「主よ、そのパンをいつもわたしたちにください」と
言うと、

6:35 イエスは言われた。「わたしが命のパンである。わたしのもとに来る者
は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決して渴くことがない。

人々は口に入るパンのことをずっと考えていました。しかしイエス様は、彼ら
にまことのパンのことを語られました。朽ちる食べ物ではなく、永遠の命に至
る食べ物の話をしておられました。このように、しばらくすれ違ひの話が続き
ました。彼らは本当に養いを求めてあえいでいましたが、その恵みの源はイエ
ス様にあることにたどり着きませんでした。糧を得て、満ち足りて、不足な
く、安楽に生きたいと願いました。そして信じるに足る方であると証明してく
ださいとすごみしました。民は生きる糧を、食するパンを求めましたが、イエ
ス様は、私自身が命のパンだと語られました。

あのルカ5章、ペテロたちが網を置いてイエス様に従ったと言う出来事が思い
出されます。この方と一緒にあれば、私たちは自らの生業を捨ててもこの方
のお力の下にあれば何の心配もいらない、この方におすがりし、お委ねするのだ
と心に決めました。しかしそれは、この方が養ってくださるからもう働かなく
ても生活ができる、楽ができるから、お得だからこの人についていこうとい
うものではありませんでした。マタイがその徴税のための台を置いて直ちにイエ
ス様のもっと従って歩んだと言う事もそうでした。

それは彼が今まで騙し儲けた、偽りの生き方を捨てて新しい生活をしようとい
う決意であり、そのようにしてわが主と共に歩むと言うことを意味していま
した。

漁師たちが自分の漁の網をとって歩いていくと言う事は、別段彼らにとって難
しいことではありませんでした。行き慣れた、進み慣れた、歩み慣れた道でし

た。しかしそれを捨ててこのイエス様にかけていくと信じて希望を持って進んでいくと言う事は、ただただ楽が出来て養ってもらえると言う安易な思いから出たものではなかったはず。彼らは行き慣れた道を捨てても、すべてを失ってもイエス様と共に生きたいと願ったのです。困難があるかもしれない、どんな道になるか分からない、今まで生きてきたようにはいかないかもしれないという事をすべて分かったうえで、彼らはイエス様に従う決意をしました。

36 しかし、前にも言ったように、あなたがたはわたしを見ているのに、信じていない。

30 節にありましたように、人々は「それでは、わたしたちが見てあなたを信じていることができるように、どんなしるしを行ってくださいますか。どのようなことをしてくださいますか。」と、神様に要求することばかりでした。

民はモーセが私たちの先祖を養ってくださっているように、あなたも養ってください。信じていることができるようにしるしをもって私たちを信じるに値する方であるということを示してくださいと、そのような身勝手に自己中心的でした。

ここが群衆たちと主の弟子たちを分けるところでした。弟子たちはイエス様を見て信じました。しかし群衆たちはイエス様を見ても信じられませんでした。群衆たちは給食をしてもらい続けることを望みましたが、弟子たちはイエス様を信じて網を捨て、人生をかけてイエス様に従いました。その差は何だったのでしょうか。

マタイ 6:25 「だから、言うておく。自分の命のことで何を食べようか何を飲もうかと、また自分の体のことで何を着ようかと思ひ悩むな。命は食べ物よりも大切であり、体は衣服よりも大切ではないか。

6:26 空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる。あなたがたは、鳥よりも価値あるものではないか。

6:27 あなたがたのうちだれが、思ひ悩んだからといって、寿命をわずかでも延ばすことができようか。

6:28 なぜ、衣服のことで思ひ悩むのか。野の花がどのように育つのか、注意して見なさい。働きもせず、紡ぎもしない。

6:29 しかし、言うておく。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。

6:30 今日は生えていて、明日は炉に投げ込まれる野の草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことではないか、信仰の薄い者たちよ。

6:31 だから、『何を食べようか』『何を飲もうか』『何を着ようか』と言って、思い悩むな。

6:32 それはみな、異邦人が切に求めているものだ。あなたがたの天の父は、これらのものがみなあなたがたに必要なことをご存じである。

6:33 何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。

6:34 だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦勞は、その日だけで十分である。」

山上の説教にはこうありました。

「まして、あなたがたにはなおさらのことではないか、信仰の薄い者たちよ。」

私たちが信仰を持って生きるという事、それはすべての証拠盾がなされ、蔵が満たされ、もう大丈夫だから信じるという事ではなくて、この方が私と共にいて下さるのならば、私たちには何もなくても安心だと信じられる方と出会うという事なのです。

その方は私を大切な子とを思い守り抜いてくださり、養ってくださる。そして命すら惜しまず与え贖ってくださり、私を神の子としてくださる。この方を信じる。そのためにイエスキリストをお遣わしになったその神様の御心に信頼する。これが私たちのいつまでもなくなる永遠の命に至る食べ物を信じるという事であり、それが信仰であるということを今日の聖書の中に語られているのではないのでしょうか。

「わたしが命のパンである。わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決して渴くことがない。

この私を信じ、私と共に歩きなさい。決して飢える事なく決して渴くことがないようにあなたを助け続けよう。イエス様そのように今日も語ってくださることを心に留めたいと思います。

「私たちが見てあなたを信じることができるようにどんなしるしを行ってくださいますか、どんなことをしてくださるって言うんですか。」ここには信仰がありません。そして見せてもらったところでいつもいつも見せて見せ続けてもらわなければ信じることができないことでしょう。「あなたを幸せにしますから結婚してください」と言う目の前の人を信じるからこそ結婚して人生を共に

進むそのような決断をするわけですがけれども、本当に幸せにしてくれるのか、結婚して大丈夫なのか、その証拠を見せてくれ、証拠を見せてくれ、預金通帳を見せてくれ、立派な家があるか見せてくれと何度も何度も言われたら、信じてくれないと悲しくなるでしょう。

「それでは、わたしたちが見てあなたを信じることができるように、どんなしるしを行ってくださいますか。どのようなことをしてくださいますか。」と日に日に言われたら、もう互いに助け合っていこうと言う気持ちが失せてしまうかもしれません。

私たちにとって大切なのは、「わたしが命のパンである。わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決して渴くことがない。」と語って下さる方を信じ、受け入れることです。

そのことを信じますあなたが私の命のパンとなって決して飢えることなく渴くことがなく守ってくださることを信じます感謝しますと信じてついていく、そういうことがどんなに大切なことであるかということをお教えられます。

6:36 しかし、前にも言ったように、あなたがたはわたしを見ているのに、信じない。

6:37 父がわたしにお与えになる人は皆、わたしのところに来る。わたしのもとに来る人を、わたしは決して追い出さない。

6:38 わたしが天から降って来たのは、自分の意志を行うためではなく、わたしをお遣わしになった方の御心を行うためである。

そのメシア、救い主であるというしるしを見るよりも食べて満腹したから私を求めてるだけではなく結局のところ自分自身自分が中心になってそして信じる心などさらさらではないのではないか。そして自分の関心を持っていることが与えられればそれでいいと思っているのではないか。

しかし私は、「自分の意志を行うためではなく、わたしをお遣わしになった方の御心を行うため」に来たのだ。このことの大切さを教えられます。

モーセが与えたよりも素晴らしい命を与えるパンが今あなたの目の前に現れていると言うことを信じることができず、「この水を飲む者はだれでもまた渴く。しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渴かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。」との真実を知らないのならば、不幸であると思います。これはサマリアの女性との会話です。この後まずヨハネ 7-37 からこのようにあります。

「渴いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい。

7:38 わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる。」38 わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる。」

7:39 イエスは、御自分を信じる人々が受けようとしている“霊”について言われたのである。

朽ちる糧ではなく、永遠の命に至る食べ物を得て、祝福を得ることをイエス様は語っておられます。

6:35 イエスは言われた。「わたしが命のパンである。わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決して渴くことがない。イエス様はこのように、「決して」「絶対に」飢えない、渴かないと、はっきりとした言葉で人々にご自分を信じるように話されました。そして神様を信じ、生きる守りと喜びを語られました。

36 しかし、前にも言ったように、あなたがたはわたしを見ているのに、信じない。

近視眼的な、打算的な、即物的な、そのようなことを考えている人たちには計り知れない恵みと守り。朽ちるものに目を奪われ、目の前のことに汲々として最高の守り手である神様を信じるという事を忘れ、目に見えるもの、証拠あるものに執着して、目の前におられるいのちのパン、命を捨てて守り助けて下さるイエス様を見落としてしまう事は不幸であると言わざるを得ません。

心の奥底から生きた水の川が流れる聖霊による喜びがあり、永遠の命があり、神の子として受け入れられてそのような救いを手にすることができるのに。あなた方は私を見ているのに信じない。これが私たち人間の弱さです。まず信ずる者になるためにあなたの御業を見せて下さいと願うのではなくて、わたしが命のパンである。わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決して渴くことがない。」と約束して下さるお方をいのちのパンと信じぬいて、困難の中にも、孤独の中にも、逆境の中にも飛んで助けに来てくださり、自らの命を捧げて助けて下さるお方を信じる人は幸いです。

6:37 父がわたしにお与えになる人は皆、わたしのところに来る。わたしのもとに来る人を、わたしは決して追い出さない。

6:38 わたしが天から降って来たのは、自分の意志を行うためではなく、わたしをお遣わしになった方の御心を行うためである。

自分の意思を行おう行おうとする心が私たちにはありますが、イエス様そして私たちの心をとらえ、遣わし導いてくださる方の御心を行うためイエス様は天から降ってこられ、その生き方を、人の生き方の模範を示してくださいました。

6:39 わたしをお遣わしになった方の御心とは、わたしに与えてくださった人を一人も失わないで、終わりの日に復活させることである。

6:40 わたしの父の御心は、子を見て信じる者が皆永遠の命を得ることであり、わたしがその人を終わりの日に復活させることだからである。」

39節 40節は並列的な繰り返しの言葉となっています。

父なる神の御心とはイエス様に与えてくださった人が救われるために、一人も滅びないで守られ導かれることです。そして、子を見て信じる者が皆永遠の命を持つことです。終わりの日に復活することです。

ヨハ 3:16 神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を見る者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。

イエス様はいのちのパンとして、決して私たちが飢えるようにも渴くようにも、一人も失われることもないようにと日夜私たちの救いとして働いていて下さいます。父の御心は、子を見て信じる者が皆永遠の命を得ることです。命のパンであるイエス様を信じる者は、永久に飢えることなく、渴くことなく、さばきにも耐えそして終わりの日に復活させていただいて永遠に生きるものとなります。

子の永遠の命は、私たちの肉体が終わった後の始まるものではなくて、私たちがイエス様を信じたその時から私たちはすでに永遠に生きるものとされています。決して二度と飢えることなく決して渴くことがないその命の道の中に入れられていることに心から感謝したいと思います

ヨハネ 14:6 イエスは言われた。「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。